

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 児童生徒の発達段階を的確に把握し、自立に向けて可能性を伸ばすことができるよう、合理的配慮を取り入れながら個に応じた教育活動を行う。
- 2 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育及び道徳心・社会性の育成を図る。
- 3 健康で安全な生活習慣の向上を図り、安全安心できれいな学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 1 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造**
 1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯の取組みを推進する。
 2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。
 3. 地域との連携と支援を充実する。地域高齢者施設と連携した校外活動（清掃）の内容を拡充する。[R3：車いす清掃、R4：周辺地域清掃、R5：居室を含めた施設内清掃] センターの機能を発揮し地域小中学校、高等学校などからの支援要請に応じていく。[R3：300件、R4：310件、R5：320件]
- 2 児童生徒の健康を守り豊かな学びを育てる学校生活の創造**
 1. ICTを活用した授業の進め方を研究し授業を活性化し、保護者によるアンケートの満足度を向上する。[R3：64%、R4：65%、R5：70%]
 2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の職業的・社会的自立に向けた支援体制を進める。新たに中学部からの職業体験実習に取り組む。[R4：5件]
 3. 新型コロナウイルス感染予防対策を充実し、食の安全を守り、アレルギー対策や医療的ケア体制の充実を図る。[R3：70%、R4：75%、R5：80%]
- 3 働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組む**
 1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。
 2. 健康を維持し、働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。教員アンケートの満足度を向上する。[R3：70%、R4：75%、R5：80%]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1. 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造	1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯、感染防止の取組みを推進する。	<p>(1) 様々な自然災害に備えるための学校体制を充実するとともに、各種マニュアルを整備し実効性のある緊急時シミュレーションを実施する。PTA、地域とも連携し、校内の危険を防止するための対策を進める。</p> <p>①緊急時下校を想定して教職員による実践的な訓練を実施する。(1回)</p> <p>②PTAと連携し、防災の意識を高めるための防災学習を実施する。(1回)</p> <p>③PTAも参加する避難訓練を実施する。(1回)</p> <p>④校内の備蓄品を点検し、PTAと連携して新たに個人備蓄品の整備を進める。</p> <p>⑤緊急一斉メールの加入率を向上する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 緊急時の引き継ぎ訓練実施(1回) [1]</p> <p>② 研修実施回数(1回) [1]</p> <p>③ 合同避難訓練実施(1回) [-]</p> <p>④ 5月までに個人備蓄を整備し「いくの防災デー」を実施する。(1回) [1回]</p> <p>⑤ 「緊急一斉メール」アプリの加入率を教職員100%、保護者95%とする [99%、95%]</p>	
	2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。	<p>(1) いじめや人権侵害事象の起こらない学校づくりを進めていく。</p> <p>① 人権尊重の教職員研修を実施し教職員の理解を深める(年3回)</p> <p>② 各種ハラスメントについて理解を深め、相談体制を充実して各事象の起こらない安全な学校にしていく。</p>	<p>① LGBTQ、障がい理解、同和教育に関する研修を実施(3回)</p> <p>② ハラスメントをテーマにした研修を開催し、教職員の理解を深める(1回)</p>	

	<p>3. 地域との連携と支援の充実</p>	<p>(1) 地域支援体制の充実 支援相談部を中心に域内の幼保小中高等学校からの支援相談を実施し、センター的機能を発揮する。</p> <p>① 支援教育講座を開催し地域への情報提供を行う。</p> <p>② 小中学校等のコーディネーターとの交流会を開催する。</p> <p>③ 交流および共同学習の機会を復活する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 支援教育講座開催（オンライン含む）（3回）</p> <p>② 交流会開催（オンラインを含む）（1回）</p> <p>③ 学校間交流を充実し（3学部各1回）居住地校交流を再開する。[0件]</p>	
		<p>(2) 校内支援体制の充実 支援相談部を中心として、福祉医療人材の活用を進める。支援相談（精神科医師）の時間を設けて、保護者と本人への支援を進める。</p> <p>① 姿勢保持や歩行に課題のある児童生徒、摂食時に工夫を要する児童生徒などの例を挙げて福祉医療外部人材への相談会と研修講座を実施し、個別の支援計画の記述及び、支援に生かす。</p> <p>② 精神面での不安を抱える児童生徒からの相談や保護者への支援を進める。</p>	<p>(2)</p> <p>① 外部人材（PT・OT・ST・臨床心理士）の活用を進める。各4回以上実施。</p> <p>② 支援相談（精神科医師）との面談を設けて精神医療面でのケアを進める。（計10回）</p>	
<p>2、児童生徒の健康を守り豊かな学びを支える学校生活の創造</p>	<p>1. ICTを活用した授業の進め方を研究し授業を活性化させる。</p>	<p>(1) ICT環境を充実するとともに、個のニーズに合わせて合理的配慮のある授業を構築する。</p> <p>①各教室の大型モニターの活用機会を増やす。</p> <p>②授業へのICTの活用を進めて児童生徒にとって興味を持ちわかりやすい授業とする。</p> <p>③ICTの活用をテーマに外部講師を招き研修を実施する。</p> <p>④臨時休業時にも活用できる教材準備を進めていく。</p>	<p>(1)</p> <p>① モニターを使用して始業式、終業式などを安全に実施する。（計6回）</p> <p>② ICTを活用した実践事例を各学部から収集し、事例データ集を作成して校内の教員へ共有する。（3学部×3例）</p> <p>③ 研修実施（2回）</p> <p>④ オンライン学習の体制を整備し家庭との連携を図り長期欠席者との遠隔授業を実施する。（各学部3回）</p>	
	<p>2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の就労に向けた支援を進める。</p>	<p>(1) 社会に開かれた教育課程をつくり、より実践的なキャリア教育推進をめざす</p> <p>①高等部の各コースの活動内容を精選充実し、学習に必要な物品を購入する。</p> <p>② 校内・校外販売学習と清掃学習に取り組む。</p> <p>③ 高等部卒業後の就労率を向上する。</p> <p>④ 中学部からの進路学習の充実。</p> <p>⑤ 全学部の保護者を対象に、進路指導に関する情報共有を事業所等と連携を図りながら実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>① キャリアアップ、ワーキング、トライの各コースの学習内容を見直し、印刷機、掃除機、耕運機、延圧機など必要な物品を購入する。</p> <p>② 校内販売学習（1回） 校外販売学習（1回） 校外清掃学習（3回）</p> <p>③ 就労率を20%とする。[R1：14%、R2：7%、R3：10%]</p> <p>④ 中学部段階での校外体験実習の実施[5件]</p> <p>⑤ 進路説明会（1回） 事業所見学会（2回） 座談会（1回） 個別の情報提供（適宜）</p>	

	<p>3. 新型コロナ感染防止対策及び食物アレルギー、医療的ケアの体制を充実させ健康で安全な学校生活の支援を進める。</p>	<p>(1) 健康で安全な学校生活を送り体力の向上に努める。</p> <p>① 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する。</p> <p>② 食物アレルギー事故防止対策を徹底する。</p> <p>③ 医療的ケア体制を充実し教職員も看護師と連携して医療的ケアを受け持つことができる体制を構築する。</p> <p>④ 安全な学校行事を企画し運営できる体制を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 手洗い、消毒の呼びかけと感染防止マニュアルの改訂を進める。</p> <p>② 給食時の安全対策を進めて、調理実習と各種行事での食物アレルギー調査を徹底する。</p> <p>③ 医療的ケアを実施できる教員を増やす(3人)</p> <p>④ 感染防止対策を踏まえて、状況に応じて行事の下見を進める。(各学部2回)</p>	
<p>3、働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組み</p>	<p>1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。</p>	<p>(1) 教職員の業務削減を進める。</p> <p>① ICT機器の活用を進めて会議効率化を図り、会議時間の短縮を進める。</p> <p>② 会議等の資料のデジタル化を進め、教職員の印刷業務の軽減を図る。</p> <p>③ ワンノートの活用により職員朝礼の時間短縮・配布資料のデジタル化を図る。</p> <p>④ 教員の消毒作業や印刷作業の削減を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>① 職員会議のWEB開催・資料のデジタル化(10回)</p> <p>② 紙媒体での配布資料を削減し、電子配布80%以上をめざす。</p> <p>③ 職員朝礼時間10分以内、紙媒体の配布資料削減。</p> <p>④ SSS(2名)や学習支援員(3名)を活用し、校内の消毒作業・印刷業務を委託する。</p>	
	<p>2. 健康を維持し働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。</p>	<p>(2) 時間外勤務の縮減</p> <p>① 月に1回「ゆとりの日」を設けて定時に退勤できるようにする。</p> <p>② 週に1回「定時退庁日」を設けて19時には全員が退勤できるように、安全衛生委員会から定時退庁を呼びかける。</p> <p>(3) 校務分掌体制の見直しを進めて教職員の業務分担の平準化を進める。</p> <p>① 校務分掌検討委員会を開催し、各分掌における業務内容の見直しを図る。</p> <p>② デイサービスに関わる業務の見直しを図る。</p> <p>(3) 安全衛生委員会による教職員の健康で安全な労働環境の保全に努める。</p> <p>① 安全衛生委員会の定期開催を進める。</p> <p>② 腰痛予防の取り組みを進める。</p> <p>④ メンタルヘルスに関する取り組みを進める。</p> <p>⑤ 経験年数の少ない教員への研修や相談体制を整え、働くことの楽しさや充実感を感じられるよう職場環境を整える。</p>	<p>(2)</p> <p>① 時間外勤務80時間越えの者0%を維持する[1名]</p> <p>② 「定時退勤日」の朝の連絡での呼びかけを毎週行う。</p> <p>(3)</p> <p>① 校務分掌検討委員会の実施(3回)</p> <p>② デイサービス担当のプロジェクトチームを立ち上げ、通学支援部の構想を進める。</p> <p>(3)</p> <p>① 安全衛生委員による定期的な校内巡視と点検を進める。(6回)[5回]</p> <p>② 集団での腰痛予防講座を開催し参加者数を増加する。 [R1:15名、R2:-R3:個人別相談7人]</p> <p>③ メンタルヘルス研修実施(1回)</p> <p>④ 校内初任期研修の実施。 8回[8回] 研究授業の相談支援。</p>	